

研究課題名

ゲムシタビン耐性となった切除不能膵癌におけるゲムシタビン+ナブパクリタキセル併用療法の治療成績—後向き観察研究

研究の意義・目的

ゲムシタビン+ナブパクリタキセル併用療法は、切除不能膵癌の標準化学療法となっています。ナブパクリタキセルが腫瘍の間質を減少させ血管新生を促すことで、ゲムシタビンの腫瘍への到達を増加させるという報告があります。しかし、ナブパクリタキセルは末梢神経障害の発現率が有意に高い薬剤です。そのため、併用療法を導入することが難しい患者さんに対してはゲムシタビン単剤療法を選択します。ゲムシタビンが耐性となった症例であっても、ナブパクリタキセルを併用することで腫瘍縮小が得られることがあり、それらの患者さんのデータをまとめて治療成績を明らかにすることは、本疾患の患者さんに対する治療選択の一助になる可能性があります。

研究機関

杏林大学医学部附属病院

方法

本調査研究に対象となる患者さんのカルテを調査し、必要なデータ（年齢、性別、手術歴、血液検査データ、治療期間、治療効果、副作用等）を記録します。対象となる患者さんは、2014年12月から2019年3月までに切除不能膵癌に対して初回化学療法を受けた方です。研究実施期間は承認後～2020年3月31日までとなります。

プライバシーの保護と個人情報の取り扱いについて

本研究に関連するすべての情報は、研究の為にだけに用いられ、すべての個人情報は秘密厳守で取り扱います。

研究に必要なデータの記録には、患者さんの氏名・イニシャル・住所等、調査の対象となる患者さんを特定できる情報は一切記載しません。また、本調査研究に対象となる患者さんからの求めに応じて提供を停止いたします。

※この研究に関するお問い合わせは、以下の問い合わせ先へご連絡ください。

《問い合わせ先》

研究機関名：杏林大学医学部附属病院 腫瘍内科

住 所：三鷹市新川 6-20-2

電 話：0422-47-5511（代表）

担当者：西岡 真理子（内線：6525）